

# 主体的な表現意欲を育てる授業の工夫

— 2年教材「スイミー」の学習指導を通して —

知念村立知念小学校教諭 糸 数 佐百合

## 目 次

|     |                    |    |
|-----|--------------------|----|
| I   | テーマ設定の理由           | 1  |
| II  | 研究仮説               | 1  |
| III | 研究の全体構想図           | 2  |
| IV  | 研究内容               | 3  |
| 1   | 認め合いの場作りをめざして      | 3  |
| (1) | よい聞き手話し手の育成        | 3  |
| (2) | 評価の工夫              | 5  |
| 2   | 効果的な表現活動の工夫        | 5  |
| 3   | 教材「スイミー」の学習指導にあたって | 6  |
| (1) | 共感的児童理解による支援       | 6  |
| (2) | 動機づけの工夫            | 6  |
| (3) | 文章のイメージ化           | 6  |
| (4) | 表現活動の工夫            | 7  |
| (5) | 視聴覚機器の活用           | 7  |
| (6) | 自己評価・相互評価          | 7  |
| V   | 授業実践               | 7  |
| 1   | 単元名                | 7  |
| 2   | 単元設定の理由            | 7  |
| 3   | 単元の指導目標            | 7  |
| 4   | 単元の観点別評価目標         | 7  |
| 5   | 実践例 1              | 8  |
| 6   | 授業の考察 (1)          | 8  |
| 7   | 実践例 2              | 9  |
| 8   | 授業の考察 (2)          | 10 |
| VII | 研究の成果と今後の課題        | 10 |

## 主体的な表現意欲を育てる授業の工夫

— 2年教材「スイミー」の学習指導を通して —

知念村立知念小学校教諭 糸 数 佐百合

### I テーマ設定の理由

変化の激しい、先行き不透明なこれからの時代をたくましく生きていくのに必要な力は自己教育力と豊かな人間性、そして、心身の健康と体力であると言われている。中でも、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動する、いわゆる自己教育力の育成は生涯学習につながる重要な課題である。

主体的学習を支えるものに児童の内発的な欲求がある。児童らは「なぜ?」「どうして?」という疑問から、「知りたい」「おもしろそう」という知的好奇心を持ったり、「周囲に認められたい」「褒められたい」等の心情的欲求を持ったりしたとき、眼を輝かせ、主体的に学習活動に参加する。そして、その過程や結果においてそれらの内発的な欲求が満たされることによって成就感や学ぶ楽しさを味わい、学習意欲が喚起されるのではないだろうか。特に、自分の思いや考えが周囲に認められ、褒められたときの児童らの表情には喜びや成就感があふれており、このような心情的欲求を満たすため、また豊かな自己実現をめざすためにも自分の思いや考えを自分なりの言葉で相手に伝えるための表現力の育成は重要な指導分野であると考えられる。

しかし、これまでの実践を振り返ってみると、算数のように、決まった答えのある教科には活発であった発表が、国語科の感想発表になると静まり返ってしまう現状がある。児童がよい感想を持っているのに発表をためらうのには、教師が何の手立てもないままにかれらの発表を期待し、その意図する答えが出るまで問答をくりかえしたこれまでの授業の影響が少なくないだろう。児童らの内に秘められた豊かな感性や表現力の片鱗を、つぶやきやノートの感想などで見る度にそれを児童自らが音声言語によって表現したいと望むような、そして、一人一人のよさや可能性を発揮させられるような授業の工夫改善に努めなければと痛感した。

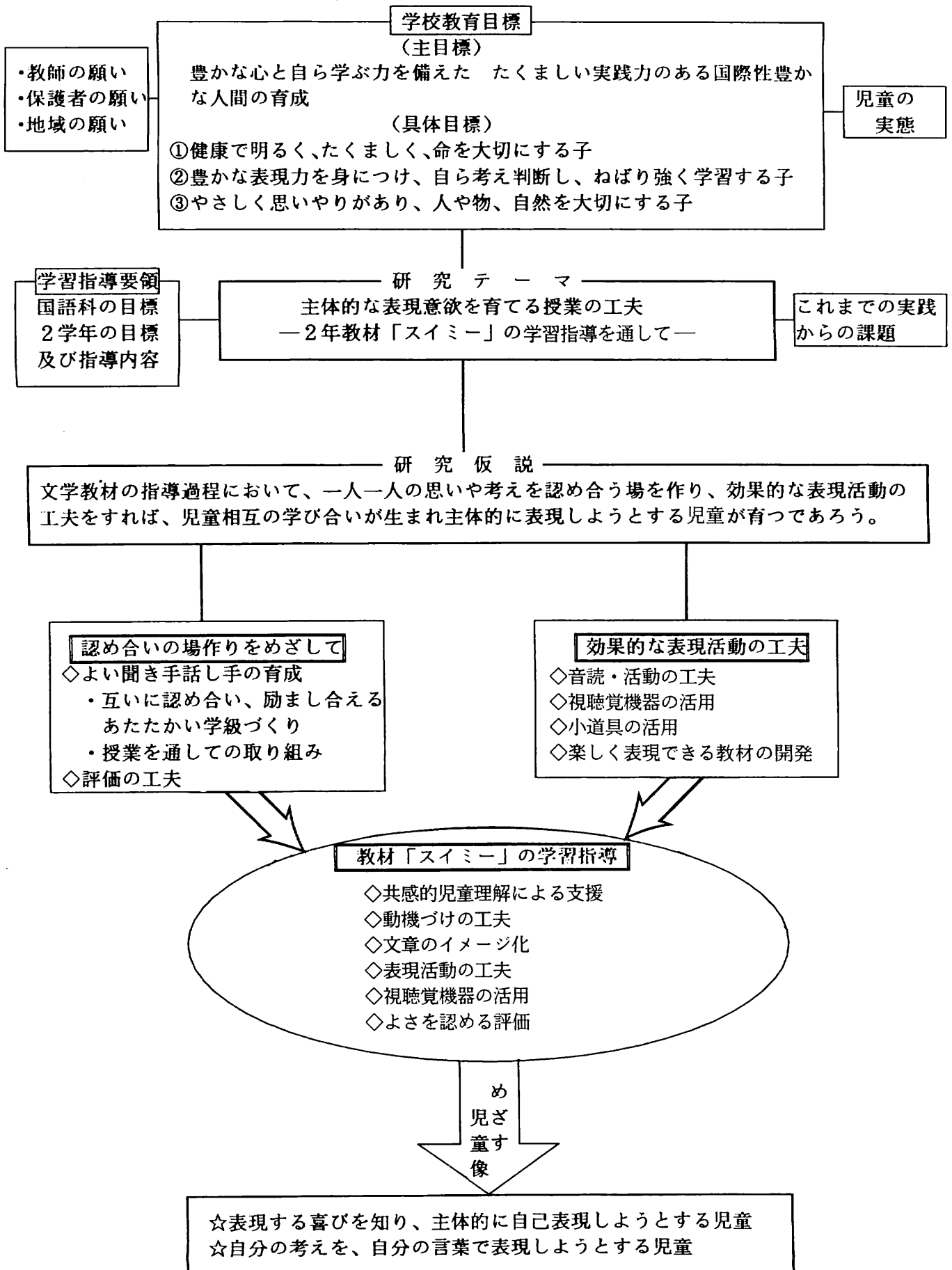
自分の考えを上手に伝えるには、ある程度の技能が必要であるが、本研究では人前で発表する意欲を持たせることを前提条件と考えた。表現することに前向きになれば、児童一人一人が参加する学習が可能となり、自分のよさを十分発揮しながら技能を身につけることができるであろう。さらに、そこから自信が生まれ新たな学習意欲へと発展し、豊かな自己実現の基礎が培われるのではないだろうか。

以上のことから、本研究では、自分の考えや思いを発表したいという意欲を持たせることを基本とし、児童らがそれぞれのよさを発揮し、互いのよさに共感し、学び合い、高め合うことのできる学習活動の工夫をしていきたい。好奇心旺盛な2年生は、海の底で一匹の小さな魚が活躍する文学教材「スイミー」の作品世界に素直に入ることができるだろう。主人公「スイミー」の勇気と知恵にあこがれ、魅力的に表現された海底の美しさ、おもしろさをイメージ豊かに味わいながら、自然に登場人物になりきっていくと考えられる。スイミーの悲しみ、驚き、喜びを自分のものとして感じられるようになれば、主体的に学習に参加し、表現しようとする意欲を持つことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

### II 研究仮説

文学教材の指導過程において、一人一人の思いや考えを認め合う場を作り、効果的な表現活動の工夫をすれば、児童相互の学び合いが生まれ主体的に表現しようとする児童が育つであろう。

### Ⅲ 研究の全体構想図



## IV 研究内容

### 1 認め合いの場作りをめざして

#### (1) よい聞き手話し手の育成

児童らが自分の思いや考えを素直に話し互いに認め合える環境作りで、第一に考えるのは聞き手の問題である。場の雰囲気が話し手に好意的であったり共感的であれば安心して話すことができるし、人の話をしっかり聞くことで話す技能も高められる。よい聞き手話し手を育成するための「聞くこと」「話すこと」の指導は、国語科の授業のみならず日常の言語生活全般において一貫した指導を継続することが重要である。

#### ① **学級経営を通して** ・ ・ 個々の見方、考え方の違いや、異なる意見を受け入れ、互いに認め合える学級をめざして。

- ・ 4月当初から、「聞くこと」「話すこと」の重要性を発達段階に応じて話し、指導方針を理解させる。
- ・ 教師は児童の“聞こうとする意欲”を喚起するような話し手であるよう努める。
- ・ 教師自身が言葉遣いに気をつける。
- ・ 個々の発言に対する教師の受け止め方を「なるほど」「うんうん」「〇〇さんはそう考えたんですね」のように受容的、共感的に行う。
- ・ きちんとしたあいさつができるように指導する。
- ・ 友人の発言をばかにしたり、笑ったりすることがないように指導する。
- ・ 普段から、一語文（教師から糊を借りたいとき「先生のり」と省略した言い方をすること）に対する指導をきちんとする。
- ・ 朝の会、帰りの会に読み聞かせや語り聞かせ、詩の群読、歌声などを位置付け、継続する。
- ・ 朝の会や帰りの会などを利用して、みんなの前で話すことの習慣化を図る。
- ・ 全体集会の後に、内容について感想を話し合う時間を設けるなど、積極的に聞かせる工夫をする。

#### ② **授業全般を通して**

- ・ どの教科でも、発表の場や認め合いの場を意図的・計画的に設定する。
- ・ 相手の言いたいことを理解しようとして聞くこと、理解してもらうように話すことの大切さを知らせる。
- ・ 友達の発言は、最後まで静かに聞くようにさせる。
- ・ 友達の発言に対しては称賛や励ましをおくるように習慣づける。
- ・ 相手の顔を見て、終わりまでしっかりと聞く（話す）ようにさせる。
- ・ 場に応じた声の大きさ、速さ、間の取り方、言葉遣いに気をつけさせる。
- ・ 視聴覚機器（ビデオやテープレコーダー等）の活用を工夫する。  
※児童の興味関心が高い。 ※一過性の音声言語を再生することで確かめることができる。
- ・ 学習で使う基本話型を発達段階に応じて作成し、定着させる。

#### ③ **国語の授業を通して**

- ・ 「聞くこと・話すこと」の指導について、各学年の系統性を把握し、該当学年の内容を意図的、計画的に指導する。（P 4 表参照）
- ・ 楽しく表現活動ができる教材の開発に努める。
- ・ 共感的児童理解を通して一人一人の実態を把握し、個に応じた支援を行う。

表 国語科における「聞く・話す」指導の単元系統表（光村図書出版国語指導書参考）

| 単元 | 教材名                                               | 聞くこと                                                                                                                   | 話すこと(話し合うこと)                                                                                                                                                                                                                            | 指導のポイント                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 二  | 11 おとあてゲーム<br><br>1 わたしのたからもの                     | ◎出題者が出した音をよく聞き取り、聞こえたとおりに声に出して言ったり、書いたりできる。<br>○進んで参加し、終わりまで注意して聞くことができる。                                              | ◎声の大きさを考えてみんなに聞こえるように話すことができる。<br>○伝えたいことをはっきりさせたり、話の順序を考えたりして話すことができる。<br>○相手の方を見ながら積極的に話したり、聞いたりすることができる。                                                                                                                             | ・いろいろな音をしっかりと聞かせて、自分に聞こえたように自由に表現させる。<br>・聞く人によって様々な聞こえ方があることに気づかせ、友達の表現を認め、楽しみ合う。<br><br>・CDを活用し、内容や態度(声の大きさなど)を参考にさせる。<br>・小グループでのゲームを活用し、話すことに慣れさせる。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 二  | 5 絵かきゲーム<br><br>9 夏のできごとを話します<br><br>1 こんなときどう言うの | ◎順序を表す言葉に気をつけながら話の内容を正しく聞き取り、それを絵でかき表す絵かきゲームを楽しむことができる。<br>○友達の話最後まで関心を持って聞き、質問や感想を言うことができる。<br><br>○人の話を最後まで聞くことができる。 | ◎順序を表す言葉を使って、相手に分かるように話すことができる。<br><br>◎話したいことを聞き手によく分かるように話そうという意欲を持ち題材や順序を整理して話すことができる。<br>○声の大きさや速さに気をつけてゆっくりとはっきり話すことができる。<br><br>◎人の話をしっかり聞きそれを受けて自分の考えや気持ちを相手によく分かるようにはっきり話すことができる。                                               | ・児童の実態に合わせて問題の難易度を考慮する。<br>・初期の段階では速さや得点を競うのではなく正確なイメージの構築に重点を置く。<br>・話す内容の把握と意欲づけを大切にす。<br>・「聞き手に伝わる話し方」を意識づけて練習させる。(自然な生き生きした言葉)<br>・グループのみんなに話す場を中心にする。<br>・挿絵や写真や資料を使い、身振り手振りとともに話す工夫を奨励する。<br><br>・教科書の挿絵とCDを活用して、自分の考えや気持ちを伝え合うには、相手に良く分かるように話すこと、相手の話を良く聞いて答えることが大切であることを確認する。<br>・生活のいろいろな場面を設定し、役割演技で会話させる。どの場合でも人の話を良く聞いて、それを受けて返すという場を必ず設定する。                                                       |
| 三  | 5 まいごさがし<br><br>9 わたしのニュース<br><br>1 こんな題名がいいな     | ◎ゲームを楽しみながら正確に聞くことの大切さを知り、大事なことを落とさずに聞くことができる。<br>○聞いたことをもとに、話の要点をまとめたり他に生かしていくことができる。<br>○大切なことをメモしながら聞くことができる。       | ◎事柄の順序を整理して話すためのメモにまとめ、メモをもとに分かりやすく話すことができる。<br>○最近の出来事の中からみんなに話すための話題を選び、話したいことがよく分かるようなメモの工夫を進んですることができる。<br><br>(話し合うこと)<br>◎詩の題名や係や生き物などに名前をつける目的で、なぜそう考えたのかわけを考えて、積極的に意見を述べ、話し合うことができる。<br>○グループの話し合いに進んで参加し、話題に沿ってみんなで話し合うことができる。 | ・教科書の例をていねいに扱いながら、聞き取るポイントを理解させる。<br>・実際に探したり、無駄な言葉の入ったアナウンスを提示したりしながら、まいごを探すには、何を聞き取らなくてはいいかを確認する。<br>・メモの取り方を指導する。<br><br>・児童一人一人の実態を把握する。<br>・「顔を見て話す」ことの大切さに気づかせる。<br>・話の滑らかさではなく、話し手と聞き手の間の心の交流を重視し、そのような体験の場を設定する。<br>・メモについては一人一人の工夫を尊重する。<br><br>・結論だけ言うのではなく、何らかの形で理由を言い添える話し方を意識させる。<br>・論理的な説明にこだわらず、「うまく説明できないが、そう感じる。」のような心情的根拠も理由になることを理解させる。<br>・話し手の心情までもしっかりと聞き取らせ、温かい協調、共感に支えられた姿勢で聞くようにさせる。 |
| 四  | 5 正確に伝えられるかな<br><br>9 「ニュースの時間」です                 | ◎話の要点や中心点を、正確に聞き取ることができる。<br>○よく聞き取れなかったことや分からないことは聞き返し、話の内容を正確にメモにまとめることができる。                                         | ◎話す速さや間の取り方を工夫して、話したいことの中心がみんなに分かるように話すことができる。                                                                                                                                                                                          | ・伝える側は内容を正確に伝えられるようにする。<br>・メモを取ることが優先されて、内容の把握がおろそかにならないように注意する。<br>・画一的な型の押し付けにならないようにする。<br><br>・聞き手と話し手二人で話すことで、より会話に近づける。                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

以下省略

## (2) 評価の工夫

| ☆これまでの評価の現状                                                                                                                                                                               | ◎これからめざす評価                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後テストやできあがったノート、ワークシートによる結果主義的な評価に片寄りがち</li> <li>・なぜそのように理解したり表現したりしたのか、児童の思考過程に着目した評価が不十分</li> <li>・形成的評価や1時間1時間の評価を次の支援に結びつけることができない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ過程や、学び方が身についたかをみる評価</li> <li>・児童のよさや可能性を発見し、伸ばすことができる評価</li> <li>・一人一人の学びをきちんと把握し、次の支援へつなげる評価</li> </ul> |

### ① 評価の範囲

評価には（1時間1時間の評価）（単元を通しての評価）（学期ごとの評価）（学年を通しての評価）という時間的スパンが考えられる。毎時間全員を評価するのは難しいので単元を通して4観点の評価できるようなゆとりある計画を立てたい。1つの単元でよさを見取れなかった児童については次の単元で重点的に見てあげるよう心掛け、その積み重ねによって学期、学年末には全員のよさを認められるようにしたい。

### ② 評価の手順

『単元の観点別評価目標』を明確にする



『評価場面』『具体的評価目標』を設定する



『評価基準』を設定する

◎小学校児童指導要録付属資料「観点別学習状況評価のための参考資料」や学習指導要領の内容、及び指導書や教科書を参考に設定する。

◎単元の指導展開のどこで評価するのか評価場面を設定する。どのような行動特徴を取り上げるべきかを明確にする。

◎具体的評価目標についてA「十分満足できる」B「おおむね満足できる」C「努力を要する」の判定基準を設定する。

### ③ 自己評価・相互評価

自己評価は、児童が自分の学習の目標をどの程度実現しているかを把握し、次の学習活動を主体的に進めることができるようにするとともに、自分のよさに気づき、自信を持つようになるという効果がある。相互評価も、他の児童のよさに気づき、自分のよさを高めるうえで大切である。主体的な自己評価、相互評価を実現するために、毎時間の目標や課題を明確にすることや個々のよさに目を向けさせるなどの支援を行いたい。

## 2 効果的な表現活動の工夫

2年生の特性として

- ・好奇心旺盛である。
- ・友達と協力して学習することができつつある。
- ・手先が器用になり、字や絵をある程度かけるようになっている。
- ・読書の習慣が身につく、幅も広まりつつある。
- ・物語の主人公になりきり、その世界で遊べる。
- ・一人一人の個性や能力の差が顕著に表れてくる。

などが挙げられる。これらの特性を踏まえ、表現意欲を高める活動の工夫を考慮した。

### (1) 音読活動の工夫

- ・音読は、練習を重ねればどの子もある程度上達でき、全体の場合でも比較的抵抗なく発表できる。
- ・消極的な児童や、声の小さい児童もグループでの読みには意欲的に参加する傾向にある。
- ・視覚効果や音響効果など教材に合わせて工夫する。（紙芝居、BGM、効果音など）
- ・教材の特性や児童の実態に合わせて、役割読みや、リレー読みなど読みの形態を工夫する。

### (2) 視聴覚機器の活用

- ・ビデオ —— 発表の例（良い例悪い例）を示す。発表の様子を撮影し、再生することで良い面や改める点を確認できる。年間を通して計画的に撮影することで個々の成長の記録となる。
- ・OHP —— TPシートの工夫により、音読、朗読発表での挿絵や紙芝居の代わりとして利用できる。ペーパーサート（セロハンなどで作る）を動かしながら役割読みをすると、投影されたスクリーンに視線が行くので発表者はリラックスして表現でき、聞く側も集中する。

- ・テープ —— 音読・朗読や役割演技での、声の強弱や間の取り方、速さなどを振り返ることができる。  
レコーダー

### (3) 小道具の活用

登場人物になりきって役割読みをしたり、心情を表現したり、役割演技をする際に、児童が作ったかぶりものやペープサート、お面などを利用すると発表者の感情移入や見ている側のイメージ化を助ける。

### (4) クイズやゲームを取り入れた活動

#### ◇なぞなぞゲーム（スリーヒントゲーム）

例 (ア) 教室の前の壁のそばにあります。(イ) 形は長方形です。(ウ) 色は時々変わります。  
さあ、わたしはだれでしょう。（答えは、テレビ）

- ・まず教師が出題者になりやり方を示す。・問題は児童が知っている身近なものにする。
- ・ヒントの作り方を理解させる。

#### ◇ヒントをさがせ（なぞなぞゲームの発展）

(ア) 話し手がある1つの物（動物、野菜、昆虫など）を当てるためのヒントを三つ発表する。  
(イ) 聞き手が、さらにその物について3回質問する。  
(ウ) 聞き手が答える。不正解の場合はさらに3回質問し、正解するまで続ける。

#### ◇行き先あてゲーム

(ア) 架空の町の絵地図を用意する（黒板掲示用の大きい地図を1枚）  
(イ) 出題者が、決められた場所から行き着く先までの道順をゆっくり説明する。  
(ウ) 回答者はメモに目印と進む方向を書く。  
(エ) 書いたメモをもとに、行き先を発表する。

## 3 教材「スイミー」の学習指導にあたって

### (1) 共感的児童理解による支援

児童一人一人が自分の思いや願いを自分の言葉で表現し、「発表（発言）してよかった。」「僕にもできる！国語って楽しいな。」という気持ちや、次への意欲を持つことができる授業をめざしたい。そのためには児童の学習意欲をかき立てる教材の選択や活動の工夫とともに、一人一人の児童を共感的に理解することによって可能となる教師の温かい支援が重要である。一見、目標からそれているように思える発表でも、児童の思いや意図を見い出せば具体的に支え励ますことができるだろう。児童一人一人を共感的に理解するためには、授業のみならず学校生活全般において児童の特性やよさ、言動の傾向などを観察、記録しておく必要がある。今回は、4月からかわることができないという状況であるため、児童らとの交換日記を発想や表現力を知る手立てとし、授業ではできるだけ自分の言葉で自分らしさが出せるように吹き出しスタイルのワークシートを用いることとした。

また、文学教材においては解釈の幅を広げることも可能であると考え、児童一人一人の思いや願いを共感的に理解し、温かく支援できるように努めたい。

### (2) 動機づけの工夫

#### ①（導入）

海に面した地域のため、児童らは物語「スイミー」の世界に抵抗なく入り込めると思われる。今回は、地球儀や紙芝居「かりゆしの海」（童心社）を導入に用いて、海の広さや神秘性にまで目を向けさせたい。

#### ②（課題作り）

初発の感想を行間に簡潔に書かせ、感想と疑問に分けて色別のカードに書き掲示用の教材文に貼らせる。それにより早い子には状況を見て課題の少ない段落の感想や疑問を考えさせ、どう書いていいかわからない子には友達のを参考にして書かせるなど個人差に応じた学習を展開させたい。

### (3) 文章のイメージ化

各場面毎に重要語句を押さえ、イメージ化を図る。その際には挿絵も活用する。課題作りで出た疑問のうち図書資料で調べられるものは調べさせておく。

#### (4) 表現活動の工夫

一人一人がイメージしたことを表現する場では、かぶりものや小道具などを使ったり、身体表現をさせたりして雰囲気作りに留意する。また、5の場面で、スイミーたちが大きな魚のふりをするとところは体育館や中庭などの広い場所で表現活動を行いたい。

#### (5) 視聴覚機器の活用

ワークシートに書かれた会話文を発表させる際、OHPでその場面を映し出して役になりきれるように支援したい。また身体表現や全員で表現する際にはビデオ撮影をして後の話し合いに役立てたい。

#### (6) 自己評価・相互評価

友達の発表のよいところを認め合う場を毎時間設けるようにした。最初の段階は態度面の評価だけでもよいこととし、段階をおって内容面の評価へとつなげたい。

### V 授業実践

#### 1 単元名 ようすや気持ちもちを考えながら読もう（物語）

教材名 「スイミー」（光村図書 二上）

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 教材観

本教材は主人公「スイミー」が、マグロに襲われきょうだいを失うが、しだいに元気を取り戻し、新しい仲間とともに大きな魚を追い出すという話である。小さな者が協力し、大きな者に立向かう姿が簡潔な文章で情景豊かに描かれており、児童が興味を持って読み進められる物語である。登場人物の言動や気持ちは、児童らの生活体験や心情を巧みにとらえているので、人物に共感し様々な感想やつぶやきが予想される。その思いを大切にした音声言語活動を行い、一人一人が自己表現しようとする意欲を育成するのに適した教材であると考ええる。

##### (2) 指導観

児童が登場人物になりきって自分の思ったことを主体的に表現するためには、物語の世界をよく理解させ、登場人物の気持ちに十分共感させる必要がある。今回は各場面でのスイミーの気持ちを児童らとともに心情曲線に表し、その変化を印象づけたい。そこから「大きくかわっていくスイミーの気持ちをくわしく読みとろう」と、全体のめあてを設定し、それぞれの場面で登場人物の言動から気持ちを想像し、文章に表れない心のつぶやきを発表し合う学習活動を展開させたい。

そのために、学習形態を工夫したり、児童の願いに沿って、お面や簡単な小道具などの工夫もしていきたい。また、より自然な雰囲気の中で発表できるようにするためには聞く側の姿勢も大切であるのできちんと指導していきたい。

##### (3) 児童観（省略）

#### 3 単元の指導目標

- ◎ スイミーの心情がその行動や周りの情景とともにどのように揺れ動いていくのかを読み取り、おもしろかったことや感動したことなど、自分の思いを友達に伝えることができる。

（表現ア・イ 理解エ・カ） （以下省略）

#### 4 単元の観点別評価目標

《関心・意欲・態度》----- 登場人物の気持ちや、場面の様子を想像しながら、進んで自分の思いを友達に伝えることができる。

《表現》----- 相手の話の内容を受けて話したり、自分から進んで話したりすることができる。

《理解》----- 登場人物の気持ちや場面の様子を想像することができる。

《言語に関する知識・理解・技能》----- 声の大きさや、速さに気をつけてはっきりと音読したり話したりすることができる。

----- 語句の性質や役割に気づくことができる。

(1) ねらい

## (2) 授業の仮説

- ### (3) 展開

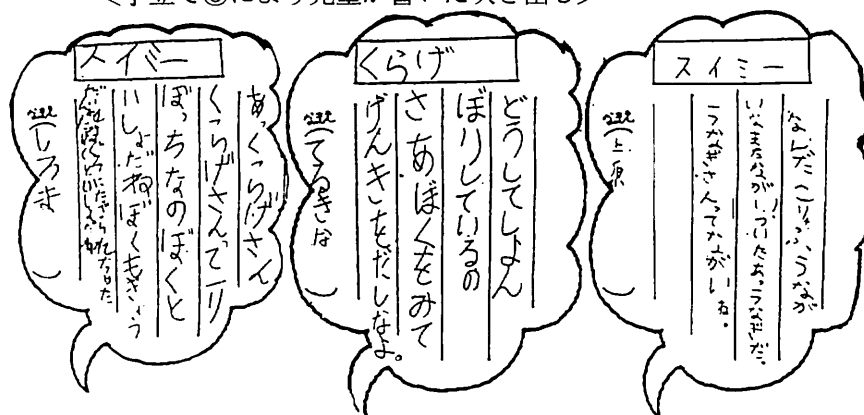
## 6 授業の考察 (1)

| 手立て                                    | 結 果                                                                                                     |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①文章中の大事な文(スイミーの気持ちを読み取るうえで大事な文)に着目させる。 | 大事な文「けれど、海にはすばらしいものがいっぱいあった。おもしろいものを見るたびに、スイミーは、だんだん元気をとりもどした。」から、初めのうちはまだ元気ではなかったスイミーの様子を読み取れる児童が多くいた。 |

|                                  |                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ②海の生き物の様子を表す言葉を押さえる。             | 「水中ブルドーザーみたいないせえび。」「見たこともない魚たち。見えない糸で引っばられている。」「うなぎ。顔を見るところにはしっぽをわすれているほどながい。」での押さえが不十分であったため、児童のイメージが深まらず不思議さや、おもしろさを書く子が少なかった。                                                                 |
| ③伸び伸びと表現できるように、場の設定やワークシートを工夫する。 | 前時までは、各場面ごと1枚のワークシートを使っていたが、本時は吹き出しの形にし、自分のイメージしたい生き物とスイミーの会話を書くようにさせた。初めての試みで書き方に戸惑う児童もいたが、それぞれ自分なりの言葉で登場人物になりきった表現をしていた。場の設定の工夫として、教室の中央に自由に動けるスペースを設け、全員で身体表現をする予定であったが教師、児童共に緊張し有効に活用できなかった。 |
| ④友達の発表を聞き、よいところを見つけ合う場を設定する。     | 発表後、友達の発表のよい点を認め合う場を設けたが、相互評価の仕方がまだ定着していなかったことと、発表の音が小さく聞こえない子が多かったため、認め合いが十分にできなかった。                                                                                                            |

児童らは、スイミーと海の生き物たちとの会話を吹き出しに書く段階では、自分の言葉で素直に表現することができた。しかし、身体表現や音声表現の場では主体的な発表が少なく、限られた児童の発表に終わってしまった。授業後「今日、発表しなかったけど恥ずかしくて発表できなかった人」を挙手で調べたところ、19人の手が上がった。発表の意志はあるものの、一人では恥ずかしいという児童が多くいることが窺える。せっかくの児童の発表意欲を何とか行動にまでつなげたいと思い、指導計画には予定されていないが、以前何人かの子がやりたがっていた「スイミーの劇」をグループでやってみることにした。

＜手立て③により児童が書いた吹き出し＞



＜表現活動の様子＞



## 7 実践例2 (13.14/16)

### (1) ねらい

これまでの学習でイメージしたことをもとに、グループで決めた場面の様子を表現することができる。

### (2) 授業の仮説

- ・演技場面や役割をグループの話し合いによって決めたり、協力し合って練習に取り組ませたりすることによって表現の意欲が高まり、楽しく発表できるであろう。

### (3) 展開 (2時間)

|     | 学習内容及び活動                                          | ☆教師の支援                                                       | 評 価                             |
|-----|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 20分 | 1 学習のめあてをつかむ<br>◎グループでスイミーの劇をしよう。<br>2 活動の進め方を知る。 | ☆児童から出た考えである事を話し活動の意欲を持たせる。<br>☆グループのリーダーを中心に、自主的に進めるようにさせる。 | グループの話し合いに参加することができる<br>(関・意・態) |
| 35分 | 3 場面や役割を決める。<br>・グループで話し合う。<br>4 練習をする。           | ☆各グループの支援をする。<br>☆これまでのワークシートを参考にしてもよいことを知らせる。               | 主体的に練習に取り組むことができる。(関・意・態)       |
| 25分 | 5 発表する。                                           | ☆発表の態度や、聞く態度の確認をする。<br>☆かぶりものなどの工夫を奨励する。                     | 自分の役割を自分なりに工夫して表現することができる。(表現)  |
| 10分 | 6 友達の表現のよかったところを発表する。                             |                                                              |                                 |

## 8 授業の考察 (2)

「スイミーの劇をやってみない？」の問いかけに児童の反応は早かった。「どんなふうにするの？」  
「だれがスイミーをするの？」と意欲的である。グループでの話し合いや練習も、男女問わず協力的なグループが多く見られた。これまでに児童が作った赤い魚や、教師の用意したかぶりもの、小道具を使っていいことを知らせると、練習のときから使いたがる児童が出てきた。しかし、「みんなで使うと足りないよ」の声に、自分たちで使うものを作るグループもあった。発表の場では普段より大きな声で音読する姿や、消極的な児童がグループの仲間と元気に動作する姿が見られた。単元終了後の調査で「グループでの発表が楽しかった」と答えた児童が76%であったことから、児童らが楽しく表現活動に取り組んだことが窺える。しかし、身体表現や音声表現の基礎的技能は十分でなく、内容及び態度的には多くの課題が残った。特に聞く側の態度は学習全般に関わることであり、発表意欲を高めるうえでも重要であるので今後も重点的に指導する必要がある。

## VI 研究の成果と今後の課題

### <成果>

- (1) 単元指導前と後のアンケート調査結果から発表に対する意欲の高まりを見ることができた。

| 項 目            | 単元指導前  | 単元指導後  |
|----------------|--------|--------|
| 一人で発表するのは楽しい   | 33 (%) | 52 (%) |
| グループで発表するのは楽しい | 43     | 76     |

- (2) 聞くことの大切さを認識させ、友達の発言を好意的に聞くようにさせたことで、一度発表した児童が再度発表しようと、意欲的になる姿が見られた。
- (3) 児童が自由な発想で書けるようにワークシートを工夫したことでそれぞれの個性を生かし、自分の言葉で書くことができた。
- (4) かぶりものなどの小道具や、ビデオ、OHPなどの視聴覚機器を活用したことで、児童らは楽しくリラックスして発表したり、関心を持って聞いたりすることができた。
- (5) 「聞くこと・話すこと」の指導内容を国語科、その他の教科、学級経営のそれぞれで明確にしたことで、年間指導計画作成の足掛かりとなった。

### <課題>

- (1) 自由な雰囲気でも何でも話し合える学級経営の工夫。
- (2) 「聞くこと・話すこと」の年間指導計画作成と、意図的、計画的な指導。
- (3) 音声言語の教材開発。
- (4) 視聴覚機器の活用及び、場や形態の工夫など、表現活動における工夫の年間指導計画への位置付け。
- (5) 文学教材における、イメージ化を図る指導と支援の研究。

### <主な参考文献>

|             |                 |        |       |
|-------------|-----------------|--------|-------|
| 石田佐久馬編集     | 『聞ける子・話せる子を育てる』 | 東洋館出版社 | 1992年 |
| 本堂寛・山崎和男編著  | 『話すこと聞くことの指導』   | 東京書籍   | 1992年 |
| 高橋俊三編著      | 『音声言語指導のアイデア集成』 | 明治図書   | 1996年 |
| 全国国語教育実践研究会 | 『実践国語研究168号』    | 明治図書   | 1997年 |
|             | 『国語学習指導書1～6年』   | 光村図書   | 1996年 |
| 北尾倫彦編集      | 『観点別学習状況の評価規準』  | 図書文化   | 1993年 |